



第25期  
business report

2009.4.1 ▶ 2010.3.31

***TAIYO KOKI***  
THE GRINDING MACHINE COMPANY

株式会社 太陽工機  
(証券コード:6164)

## 企業理念

私たちは、  
先進的技術を駆使した  
製品を創造し、  
精密加工を通して  
世界の製造業の発展に  
貢献する

## 経営方針

1 内外の法令を遵守し、  
フェアな企業活動に徹する

2 イノベーションを追求し、  
最先端の技術力と提案力で  
社会に貢献する

3 企業価値を高め、  
顧客、従業員、株主、  
その他のステークホルダー  
に報いる

## 株主の皆様へ

To Our Shareholders

### 世界的な景気リセッションの影響を受け、 業績が大幅に悪化いたしました。

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社を取り巻く経営環境は、国内では、設備投資需要の回復に時間を要しているものの、新興国を中心とした海外需要の回復に伴い、改善の兆しが見られました。そうした中、当社の受注状況は回復傾向にあるものの、前期に比べ低水準に推移いたしました。このような状況下において、当社は顧客のニーズに合った製品開発と生産効率の向上につながる提案に努め、既存取引先の需要発掘及び国内外の新規顧客の開拓・販路拡大に向けて施策を着実に実行してまいりました。また、コスト面では、設計プロセスの見直しを含め原価低減に努め、早期退職者優遇制度を実施し労務コストを中心とした固定費の最適化を図り採算ラインを低減いたしました。

その結果として、当事業年度の売上高は1,679百万円と前期比76.4%の大幅減少となり、営業損失1,240百万円、経常損失1,263百万円を計上いたしました。早期退職者優遇制度に伴う特別損失を含め当期純損失は1,563百万円となりました。

来期につきまして、設備投資需要は、国内では引き続き厳しい状況が続くと見られますが、新興国市場を中心に成長が期待される中で、国内の中堅中小企業やアジア市場をターゲットに、新機種を開発投入し積極的に営業を展開し黒字化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役社長 渡辺 登



## お客様の声に耳を傾け、 自己変革と黒字転換の実現へ

2009年度は、太陽工機の業績が大幅に悪化しました。

今後の市場環境をどのように見通しているのか、  
その中で、どのような成長戦略を描いているのか、  
また、業績悪化の中で得た教訓を  
どう活かそうとしているのか、

渡辺登代表取締役社長に聞きました。



代表取締役社長 渡辺 登

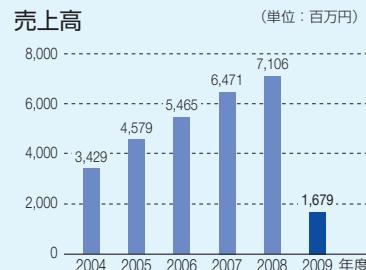
**Q1** これまで順調に業績を伸ばしてきた中で、急速に業績が悪化しました。受注は回復傾向にありますが、2009年度の業績を振り返り総括をお願いします。

**A:** 2009年度は、昨年末から海外の顧客を中心に受注が回復傾向にありましたが、結果として、大変厳しい決算となりました。その要因は3つあります。一つ目は大口の受注に甘んじ、新規需要開拓に慢心が生じたこと。特定の会社への依存度が高すぎました。二つ目は、当社の弱点でもありますが、国内比率が高いために、国内経済の落ち込みが大きく影響しました。三つ目は、外部環境について見通しの甘さがありました。景気は早期に回復するものと見込

でございましたが、予想以上に落ち込みが激しく長く続いたことは想定外の事態でありました。

そうした中、2009年4月以降、ヨーロッパ、中国を中心に顧客を徹底的に訪問しました。海外市場には大きなマーケットが存在すること、また、立形研削盤市場において、当社の製品・技術は世界ナンバーワンであることを確信し、8月に中国・北京に、12月にはフランス・パリに営業拠点を開設し海外での拡販に努めてまいりました。

## 財務ハイライト



(注) 金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## Q2 今後の工作機械の市場環境について、 どのような見通しを持っているのかお聞かせ下さい。

**A:** 工作機械市場は、環境、エネルギー、インフラ等の需要拡大と新興国市場の経済成長により中長期的には成長市場であると考えております。当社の主力事業である立形研削盤市場も、ニッチではありますが、魅力的なマーケットが存在し成長の余地があります。

例えば、国内を含めた先進国では、航空機、原子力・風力などのエネルギー、先進医療機器など多種少量生産で高精度・高品質な製品づくりに取り組んでいる中堅中小企業

ユーザーの高度化や合理化といったニーズに応えることで当社の生きる道を見出せます。また、中国では、特に内陸部において、ものづくりベンチャーが盛んでこれまで輸入に頼ってきた品質の高い製品を国産化する動きがでており、ビジネスチャンスが広がっています。

景気変動の影響を受ける市場ではありますが、世界からものづくりがなくなるわけではなく、当社が貢献できる市場は十分にあると考えております。

## Q3 研削盤のニッチトップ企業として、 今後の成長戦略についてお聞かせ下さい。

**A:** 次の目標として企業の形を変革していこうと考えています。それは、高級機と汎用機のバランスの取れたメーカーであり、海外売上高比率を50%まで高めることです。

これまで、国内大手企業のハイレベルな要求に応え、進化を遂げながら立形研削盤の高級機市場において、世界ナンバーワンの製品を国内中心に提供してまいりました。しかし

ながら、高級機だけでは世界のマーケットを開拓できません。高精度・高品質を実現する基本的な性能と機能は維持しつつ、構造を見直しシンプルなデザインの汎用機を市場に投入することにより、これまでの高級機ユーザーである国内大手企業に加えて、国内外の中堅中小企業など新たなユーザー層を獲得し成長を図ってまいります。

## Q4 今後の市場開拓において、自社の強みをどのように活かしていくのかお聞かせ下さい。

**A:** 当社の強みは、お客様の悩みを解決する提案力にあります。お客様が問題を抱えているということは誰も解決しておらず、問題を解決すれば当社がナンバーワンとなり、その結果として収益を得られることこそが提案であり、ビジネスの原点です。天才のひらめきによってうまれたアイデアというものは一瞬のうちに終わります。その次、その天才から、いつアイデアが出てくるのか誰もわかりません。やはり、お客様の声にどう応えていくのか、お客様の悩みを敏感に感じ取り、人のものまねではなく、自らの力で提案することが大事であり、そこに技術の原点を見出すことができます。これを繰り返し突き詰めていくことが持続的な発展を可能にすると私は考えております。



## Q5 2010年度の具体的な経営施策についてお聞かせ下さい。

**A:** 2010年度の絶対命題は黒字転換の実現です。具体的な施策として、7月に本社で開催するプライベートショーと秋に開催される日本国際工作機械見本市（JIMTOF）において、中・大型部品の仕上加工の標準機として新機種をリリースします。この新機種は、プロセスイノベーションの本質はそのままに、作業効率が高く、複合機で機能を絞りこみ、標準タイプのパッケージ機械として価格を同型機種より引き下げて販売していきます。まずは、国内の中堅中小企

業向け市場を開拓し、次いで韓国、中国へと展開してまいります。また、今期、中国とバりに営業拠点を開設しましたが、世界で競争していく中では知名度が不足している点是否めません。そうした点をカバーするために、森精機の販売ネットワークを活用し市場開拓を図ってまいります。

一方、コスト面においては、すでに採算ラインを月間3億円レベルまで引き下げてまいりましたが、さらに、設計・製造プロセスの効率化と開発部門・グ

ループ内連携による調達コストの低減により、なお一層のコスト削減を進めてまいります。

来期につきましては、売上高は36億円と今期に比べ114.4%の増加を見込み、営業利益70百万円、経常利益15百万円、当期純利益5百万円の黒字化を見込んでおります。

## Q6 激変した2009年度でしたが、今後の経営に活かす教訓をお聞かせ下さい。



**A:** 2009年は無我夢中で世界を歩きました。何が起きているのか、どこにマーケットがあるのか、自分の目で見て、足で歩いて、現場でお客様に接しお客様の声に耳を傾けてまいりました。そこで得られた答えは「自己革新」です。今回の不況により大きなダメージを受けましたが、景気が回復すれば売れていく自信はあります。しかしながら、本当にそれでいいのか、やはり一皮脱皮して自分を成長さ

せなければまた不況に左右されてしまう。株主の皆様にはご迷惑をお掛けすることとなりましたが、この不況で得られた経験を糧として自己革新を図り、必ず復活を遂げます。そして、一日も早く株主の皆様へ報いることができるよう努めてまいります。

# 事業概況

厳しい経営環境の中、新規顧客の開拓と販路拡大に尽力いたしましたが、収益確保にはいたりませんでした。

世界経済回復の長期化及び設備投資需要回復の遅れにより、自動車関連・産業機械関連をはじめ、総じて新規受注が大きく減少しました。

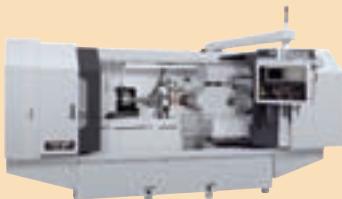
こうした状況の中で、当社はお客様のニーズに適した製品開発と生産効率の向上につながる提案に努め、また、アジア・欧州地域への駐在員の派遣、自社工場におけるプライベートショーの開催など新たな施策を実施し、既存取引先の需要発掘と新規顧客の開拓・販路拡大を図りました。

しかしながら、早期の収支改善には結びつかず、当事業年度の受注高は1,007百万円（前期比78.9%減）、売上高は1,679百万円（前期比76.4%減）、営業損失1,240百万円（前期は1,010百万円の利益）、経常損失1,263百万円（前期は990百万円の利益）、当期純損失1,563百万円（前期は554百万円の利益）となりました。

## 横形研削盤

国内を中心に需要喚起にいたらず、売上高が伸び悩みました。

自社展示会を契機に、国内ユーザーを中心とした新規顧客の開拓を推進する等、積極的に営業展開を図ってまいりましたが、自動車関連・産業機械関連を中心に設備投資計画見直しの影響を受け、当事業年度の横形研削盤の売上高は168百万円（前期比84.7%減）となりました。



IGT-12N

### 横形研削盤とは



研削盤は、旋盤やマシニングセンターなどで加工された部品を砥石で磨き、仕上げを行う工作機械です。部品を重力に対して水平に回転させて加工するタイプの機械を横形研削盤と言います。

## その他 専用研削盤

国内外における設備投資意欲の減退が影響しました。

世界的な景気回復の遅れから、需要先企業の設備投資意欲が減退し、専用研削盤のオーダーが大きく減少しました。その結果、当事業年度の売上高は76百万円（前期比86.9%減）となりました。

売上高

76 百万円

10.0 %

4.6 %

2009年度

1,6

売上高

168 百万円

## 立形研削盤

新機種の投入により受注確保に尽力いたしました。

昨年7月・11月に開催されたプライベートショーにおいて、顧客ニーズにきめ細かく対応し、独自技術を活かした高付加価値の新機種を投入する等、積極

的に営業展開を図ってまいりましたが、早期の受注獲得・収益確保にはいたらず、当事業年度の売上高は1,434百万円（前期比73.5%減）となりました。



NVGH-10TC



NVG-8T

### 立形研削盤とは

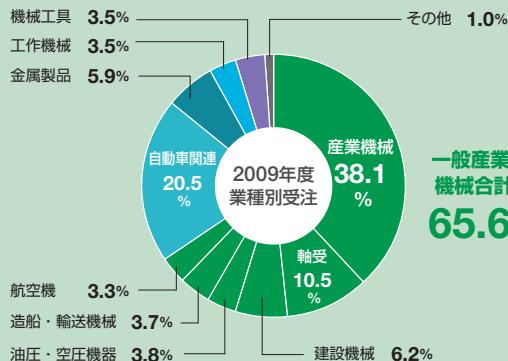


立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の工作機械です。当社がもつ独自技術により1991年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりか重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。

売上高  
**79**  
百万円

**85.4**  
%

売上高  
**1,434**  
百万円



一般産業  
機械合計  
**65.6%**

当社の研削盤が加工した製品は、こんなところで使われています。



当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応えて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

# 財務諸表

## 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	前 期 2009年3月31日現在	当 期 2010年3月31日現在
<b>【 資 産 の 部 】</b>		
<b>流 動 資 産</b>	<b>3,173,446</b>	<b>1,899,801</b>
現金及び預金	1,266,931	349,400
受取手形	—	5,588
売掛金	1,064,735	695,844
製品	22,716	—
仕掛品	452,162	501,804
原材料及び貯蔵品	230,705	149,775
前払費用	33,424	17,205
未収消費税等	—	173,000
繰延税金資産	103,463	—
その他	1,543	8,181
貸倒引当金	△2,236	△1,000
<b>固 定 資 産</b>	<b>630,245</b>	<b>1,492,640</b>
<b>(有形固定資産)</b>	<b>(553,828)</b>	<b>(1,443,996)</b>
建物	70,985	984,614
構築物	13,778	22,407
機械及び装置	78,649	60,685
車両運搬具	33	30
工具、器具及び備品	32,762	19,922
土地	357,617	356,336
<b>(無形固定資産)</b>	<b>(44,228)</b>	<b>(34,838)</b>
ソフトウェア	43,569	34,179
電話加入権	659	659
<b>(投資その他の資産)</b>	<b>(32,188)</b>	<b>(13,805)</b>
長期前払費用	5,302	426
敷金及び保証金	17,332	13,229
繰延税金資産	9,403	—
その他	150	150
<b>資 産 合 計</b>	<b>3,803,691</b>	<b>3,392,442</b>

(単位:千円)

科 目	前 期 2009年3月31日現在	当 期 2010年3月31日現在
<b>【 負 債 の 部 】</b>		
<b>流 動 負 債</b>	<b>1,125,624</b>	<b>1,344,209</b>
買掛金	48,320	62,092
短期借入金	498,000	1,050,000
リース債務	1,121	47,983
未払金	60,974	85,180
未払費用	45,719	36,038
未払法人税等	291,451	4,508
未払消費税等	40,824	—
前受金	—	6,000
役員賞与引当金	25,169	—
製品保証引当金	107,807	41,916
その他	6,237	10,489
<b>固 定 負 債</b>	<b>5,382</b>	<b>979,664</b>
リース債務	5,382	917,470
長期未払金	—	62,193
<b>負 債 合 計</b>	<b>1,131,007</b>	<b>2,323,873</b>
<b>【 純 資 産 の 部 】</b>		
<b>株 主 資 本</b>	<b>2,665,167</b>	<b>1,053,370</b>
資本金	700,328	700,328
資本剰余金	637,828	637,828
資本準備金	637,828	637,828
利益剰余金	1,382,051	△225,104
利益準備金	10,000	10,000
その他利益剰余金	1,372,051	△235,104
別途積立金	10,000	10,000
繰越利益剰余金	1,362,051	△245,104
自己株式	△55,041	△59,682
新株予約権	7,517	15,198
<b>純 資 産 合 計</b>	<b>2,672,684</b>	<b>1,068,568</b>
<b>負 債 純 資 産 合 計</b>	<b>3,803,691</b>	<b>3,392,442</b>

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	自 2008年4月1日 至 2009年3月31日	自 2009年4月1日 至 2010年3月31日
売 上 高	7,106,568	1,679,337
売 上 原 価	5,096,438	1,785,754
売上総利益又は売上総損失(△)	2,010,129	△106,417
販売費及び一般管理費	999,683	1,133,840
営業利益又は営業損失(△)	1,010,446	△1,240,258
営 業 外 収 益	7,063	39,905
営 業 外 費 用	27,465	62,931
経常利益又は経常損失(△)	990,044	△1,263,283
特 別 利 益	2,338	1,236
貸倒引当金戻入額	2,338	1,236
特 別 損 失	940	172,808
固定資産除却損失	483	507
減 損 損 失	—	4,480
リ ー ス 解 約 損	457	—
事業構造改革費用	—	167,820
税引前当期純利益 又は税引前当期純損失(△)	991,441	△1,434,855
法人税、住民税及び事業税	456,201	6,766
過年度法人税等	—	8,914
法人税等調整額	△19,074	112,866
法人税等合計	437,126	128,547
当期純利益又は当期純損失(△)	554,314	△1,563,403

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	自 2008年4月1日 至 2009年3月31日	自 2009年4月1日 至 2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,293,465	△1,369,083
投資活動によるキャッシュ・フロー	△150,214	△11,045
財務活動によるキャッシュ・フロー	△301,156	457,599
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	842,094	△922,530
現金及び現金同等物の期首残高	299,836	1,141,931
現金及び現金同等物の期末残高	1,141,931	219,400

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(単位:千円)

当 期 自 2009年4月1日 至 2010年3月31日	株 主 資 本						自己株式	株主資本 合計	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
2009年3月31日残高	700,328	637,828	637,828	10,000	1,372,051	1,382,051	△55,041	2,665,167	7,517	2,672,684
当 期 変 動 額										
剰余金の配当					△43,752	△43,752		△43,752		△43,752
自己株式の取得							△4,640	△4,640		△4,640
当期純損失					△1,563,403	△1,563,403		△1,563,403		△1,563,403
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)									7,680	7,680
当期変動額合計	—	—	—	—	△1,607,155	△1,607,155	△4,640	△1,611,796	7,680	△1,604,116
2010年3月31日残高	700,328	637,828	637,828	10,000	△235,104	△225,104	△59,682	1,053,370	15,198	1,068,568

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## プライベートショー開催に新開発機種を出展

2009年7月及び11月、本社工場にてプライベートショーを開催し、国内外ユーザーをはじめ多くのお取引先からご来場いただきました。

これにあわせ、新開発の立形研削盤3機種（NVGH-5TB S、NVGH-12T、NVGH-22T）を発表し、複雑な形状の部品や、大型部品の加工等、当社の技術力をアピールいたしました。また、グループ企業である森精機製作所、ギルデマイスター社（ドイツ）からの出展機もあわせ、森精機グループとしての切削・研削加工のトータルサポート体制や海外ネットワーク力を実感していただくよい機会となりました。

2010年夏開催のプライベートショーでは、さらに新機種2機種を発表、お客様のニーズを喚起し、受注拡大に努めてまいります。



新機種NVGH-22T



プライベートショー会場の様子

## ヨーロッパに拠点を開設、欧州開拓を強化

2009年12月、フランス・パリに営業拠点を開設いたしました。人員は営業員2名、セールスエンジニア1名の3名体制とし、ヨーロッパ全域を活動対象に、当社のコア技術『工程革新／プロセスイノベーション』をご提案し、またスピーディーなサポート体制をご提供することで、当社製品の普及拡大を図ってまいります。

また、中国・北京駐在のセールスエンジニアも1名増強して2名とし、アジア地域の旺盛な需要の獲得に取り組んでまいります。今後も人員拡充など営業体制の強化を図り、グローバルマーケット開拓を加速させてまいります。



フランス・パリの営業拠点（森精機製作所フランステクニカルセンター内）

# 会社の概要

(2010年3月31日現在)

## Corporate Data

会社名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資本金	700,328,200円
設立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械（各種研削盤）の開発・製造及び販売
従業員	170名
ホームページ	<a href="http://www.taiyokoki.com/">http://www.taiyokoki.com/</a>
本社所在地	新潟県長岡市西陵町221-35
関連会社	株式会社森精機製作所

役員 (2010年6月16日現在)	代表取締役社長 常務取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 取締役 常勤監査役 監査役 監査役	渡辺 小佐 棚牛 森間 大平	辺 林 藤橋 尾 瀬野 野塚	秋 基 滋 雅 和 義 誠	登 男 剛 裕 昭 彦 宏 彦 彰 毅
----------------------	--	----------------	----------------	---------------	---------------------

# 株式の状況

(2010年3月31日現在)

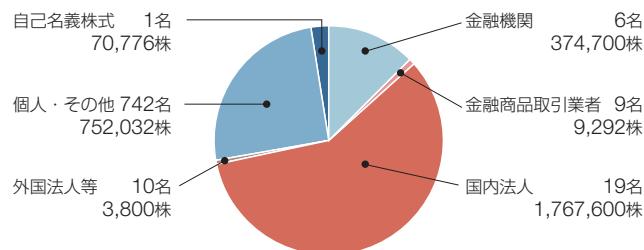
## Stock Data

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,978,200株
株主数	787名

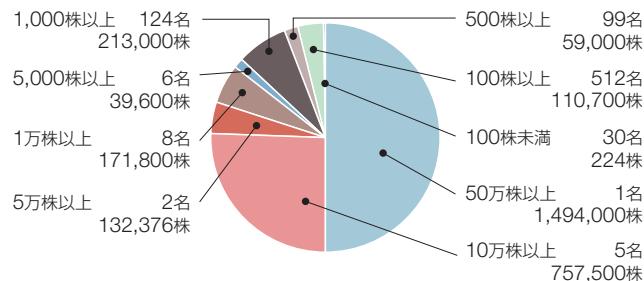
### 大株主

株主名	持株数	議決権比率(%)
株式会社森精機製作所	1,494,000	51.38
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	227,200	7.81
株式会社渡辺	152,000	5.22
渡辺 登	148,000	5.09
太陽工機従業員持株会	122,300	4.20
株式会社井高	108,000	3.71
株式会社太陽工機（自己株式）	70,776	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	61,600	2.11
株式会社第四銀行	40,000	1.37
株式会社三井住友銀行	40,000	1.37

### 所有者別分布状況



### 所有数別分布状況



## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金 3月31日  
受領株主確定日

中間配当金 9月30日  
受領株主確定日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号  
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

### 【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

株式に関するお手続き用紙（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等）のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-244-479 (通話料無料)

インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場証券取引所 大阪証券取引所 (JASDAQ市場)

公告の方法 電子公告により行う  
公告掲載URL  
<http://www.taiyokoki.com/>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

## ネットワーク

### 本社・工場

〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35

TEL. 0258-42-8808 (代) FAX. 0258-42-8810

### 東京オフィス

〒108-0075 東京都港区港南1-8-40 品川プレイスビル3階

TEL. 03-5781-3831 FAX. 03-5781-3832

### 中部営業所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16 (株式会社 森精機製作所内)

TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

### 西部営業所

〒564-0052 大阪府吹田市市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階

TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

### 九州営業所

〒802-0081 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階

TEL. 093-512-5123 FAX. 093-512-5155

## ホームページのご紹介

<http://www.taiyokoki.com/>

当社ではホームページにて当社の企業情報を随時開示しています。製品紹介、各種リンク、サポート情報等を掲載しているほか、IR情報のサイトでは決算短信等をご覧いただけます。

